

8	一般社団法人 金澤町家ドミトリー推進機構
活動名称	空き町家の定期借用による共同アトリエの創出事業 有効活用事例の提示と潜在需要の把握
活動地域	石川県金沢市

高齢者が単身で生活している町家は近い将来空いてしまい、相続時に取り壊されてしまう危険性が高い。この空き町家になるのを未然に防ぐと共に、空間を有効活用し創造都市としての魅力を高める意味合いから、一軒の町家での「移住・住み替えと定期借家による共同アトリエ活用」に取り組んだ。このモデル事業を町家所有者ならびに若いアーティストに提示し、賃貸と活用双方の潜在需要を把握するための調査を実施した。

1. 活動の背景と目的

金澤町家(まちなかエリア内の昭和25年以前に建てられた木造住宅)は約6,300棟あるが、そのうち約1,100棟は空き町家である。高齢者が単身で生活している町家も近い将来空いてしまい、相続時に取り壊されてしまう危険性が高い。この空き町家になるのを未然に防ぐと共に、空間を有効活用し創造都市としての魅力を高める意味合いから、「移住・住み替えによる共同アトリエ活用」事例を創出し、その空間をイベントやリーフレット等で町家所有者ならびに若いアーティストに提示しながら、町家を賃貸したり借用したりする潜在需要を把握することが本事業の目的である。

2. 活動内容

(1) 活動の概要と手順

①町家共同アトリエの創設と広報

高齢者が一人住まいの町家を対象として、居住高齢者に移住・住み替えしてもらった上で、その町家を共同アトリエとして創設した。そのオープン前に、金沢美術工芸大学在生による作品展示、町家内の不要品を処分し掃除をする「おくりいえプロジェクト」を実施することで、町家共同アトリエの存在を対外的にアピールした。

オープン後には、NPO法人金沢アートグミが現在準備している「アートコンシェルジュ」(アーティストや工芸家のアトリエなどを訪問するプライベートツアーをアレンジするサービス)のツアー訪問先に本アトリエを組み込むことで、金沢を訪れるアートファンに対してアトリエを積極的に紹介した。

②共同アトリエ入居需要調査

金沢美術工芸大学、金沢卯辰山工芸工房、金沢学院大学の在生を対象として、制作するためのアトリエ空間をどのように確保しているのか、どこにどんな広さの空間を求めているのか、町家共同アトリエへの入居需要はあるのか、アンケート調査を実施した。

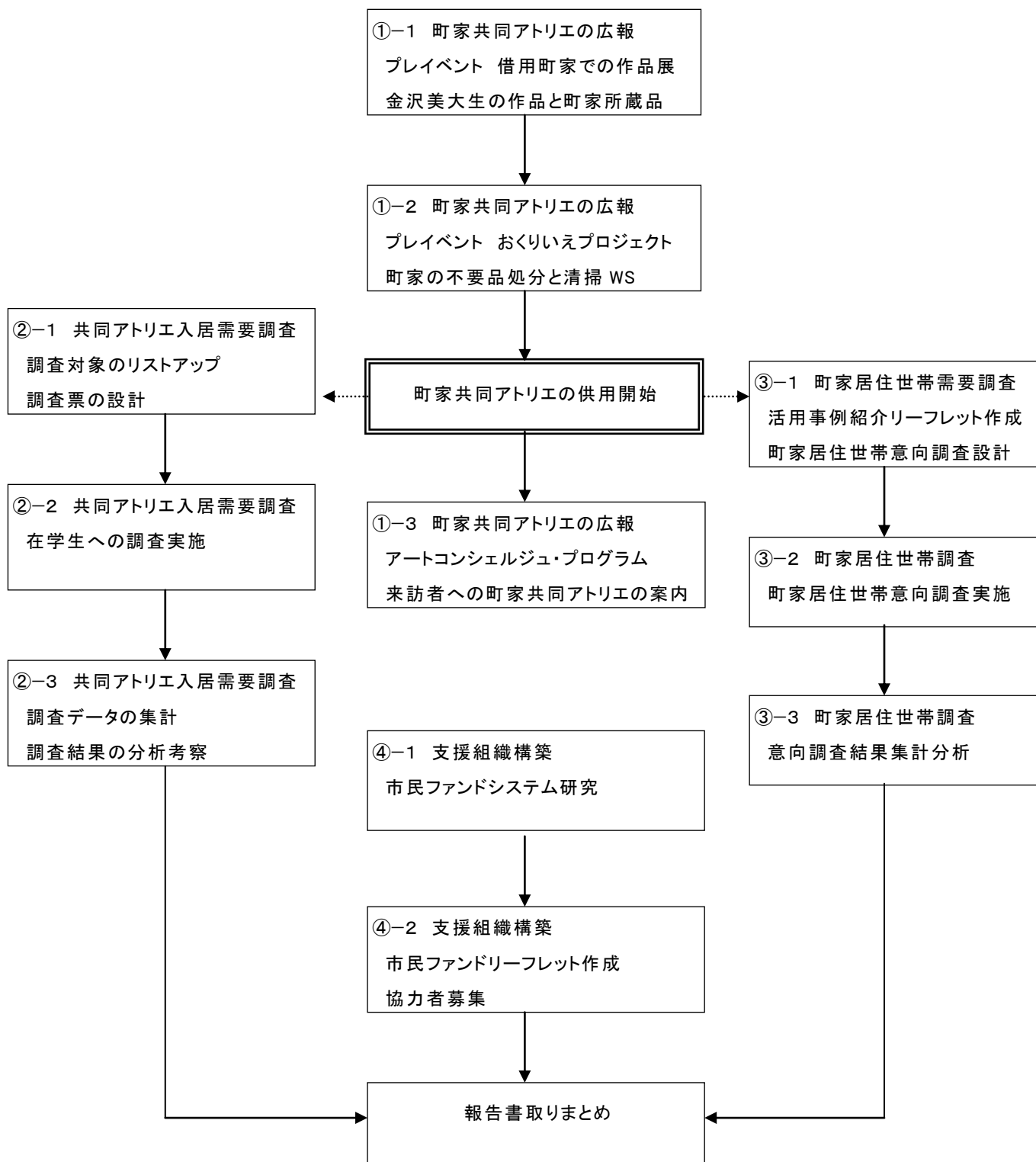
③町家居住世帯の移住・住み替え需要調査

町家を定期借用してドミトリーや共同アトリエとして活用している事例を紹介するリーフレットを作成し、居住町家全世帯(約4千世帯)に配布した。同時に、町家居住世帯に対して、町家住まいの実態と移住・住み替えにより賃貸する意向があるかどうかを意向調査により把握した。

④町家共同アトリエ支援組織構築

町家を保全しながら若いアーティストを育成するための市民支援組織を結成するために、「町家共同アトリエ支援市民ファンド」設立に向けた研究会を開催した。それに基づき、市民ファンド構築に関心のある市民有志で支援組織の母体を創り上げ、市民に呼び掛けるためのリーフレットを作成印刷した。

図 1



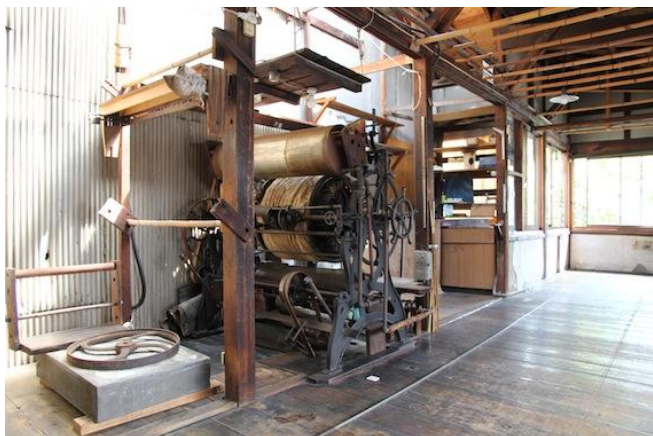
(2) 活動内容

①町家共同アトリエの創設と広報

i) 町家共同アトリエの創設

今回の事業で社会実験の場とした町家は、染物屋だった建物で、工場と住まいと土蔵が一体となっており、延べ床面積 115 坪の大きな町家である。この町家に一人住まいだった居住者（高齢の女性）は、『冬が寒くて耐えられない、広い空間を持ってあましている、この（平成 23 年）冬までにはこの家を出て取り壊そうと考えている』と言っていた。そこで、10 月までに近くの集合住宅に移住・住み替えしてもらい、11 月からその町家を定期借用（借り主は、一般社団法人金澤町家ドミトリー推進機構）することにした。このような「移住・住み替えによる町家の活用」は、金沢では初の試みである。

写真 1（上）：町家前景 写真 2（左下）：染め物の機械が残る 2 階 写真 3（右下）：2 階の座敷



ii) マチヤイロの開催

町家共同アトリエとしてオープン前するに、この事業を広く知らしめるために、以下の2つのプログラムを企画運営した。最初に、金沢美術工芸大学在学学生による作品展示「マチヤイロ」を8月末に開催した。これは、町家に残されていた所蔵品（額装された染め物、染料、染め物の型、長持などの家具）をギャラリー空間である金沢アートグミに展示し、一方の町家会場ではその空間を活かして美大生の作品展示を行った。2会場併せて約200名の来場者を数えた。

写真4(上段): 金沢アートグミ会場での所蔵品展示 写真5(下段): 町家会場での作品展示)



iii) おくりいえプロジェクトの開催

町家内の不要品を処分し掃除をするワークショップ「おくりいえプロジェクト」を企画開催し、町家共同アトリエの存在を対外的にアピールした結果、2日間で約200名の来場者を得て、みんなで町家をピカピカに掃除し、箆笥や布きれ、その他小物を持ち帰った。

写真6 (告知用のダイレクトメール 市内各所に配布した)



■おくりいえプロジェクトの概要

年に約 270 件もの町家が姿を消している金沢。その町家の最期を彩り、見送りたいという思いからスタートしたプロジェクト。取り壊しが決定した町家を「送る」、新たな住まい手のために「贈る」2 つの「おくる」があり、今回は「贈る」。

雑巾持参でご参加いただき、みんなでぴかぴかにお掃除して、内部に眠る気に入ったモノを持ち帰っていただくというワークショップである。

■当日の様子、参加者の属性

初日朝から市内の方を中心にたくさんの来場者があった。中には、金沢の町家の魅力を肌で感じたいと、名古屋、新潟の糸魚川、福井の鯖江等、遠方からの参加者もみられた。各々、町家の魅力に触れ、感激するとともに、熱心に掃除に取り組んでいた。ほしいモノを熱心に探している姿も多くみられた。

老若男女幅広く、様々な方々が参加している。一人での参加も、友人や恋人同士での参加も多いが、最近では、親子や家族といった大勢での参加が目立ち始めている。

■エピソード

よく聞かれるのが「お気に入りのモノ」が重なってけんかになったりしないですか？という声。これに関して言えば、今まで一度もけんかになったことはない。雑巾持参で掃除に参加していただけるということ自体素晴らしい。毎回ステキな参加者が集まってきているように思う。それと、人の好みは千差万別。ほしいモノは簡単に重なったりしないので見ていて非常に興味深い。

帰り際、掃除して心もきれいになった喜びと、お気に入りのモノをもらえる喜びとで、参加者の素晴らしい笑顔を見ることができる。運営側からすると毎回これが最大の楽しみである。建物がぴかぴかになり、参加者も笑顔で、運営側もうれしい。これがこのプロジェクトの神髄である。

毎回のように参加される子供連れのご家族も多く、理由を聞くと、子供のお掃除の教育の場として最適との声。回を重ねるごとに子供たちの掃除の腕は上達している。雑巾のしぼり方すらわからなかった子供たちが今では、率先して掃除をしている。逆に大人たちのほうが、お宝探しに夢中で子供たちに「ちゃんと掃除しなさい」と言われている姿も見受けられて面白い。

もうひとつよく聞かれることがある。みんな知り合いなんですかと。参加者はみんな仲が良い。といっても最初から知り合いという訳ではない。一生懸命掃除していると、その空気が移り、どんどん広がり、心もひとつにつながっていく。さらに、興味深いモノが出て来ると、それについての話が始まる。例えば、コロコロアンカー。お年寄りには知っているが、若者はそれをなにに使うかわからない。そこで、世代を超えた会話が始まり、広がってゆく。そんなこんなで、いつの間にかみんな仲良しになっている。

■前後の屋内の様子の変化

200 名近くの参加者に雑巾でお掃除していただいたため、内部はぴかぴかである。内部のモノも持ち帰られたモノが多く、最初に比べすっきりした状態となった。さらに空気感。参加者が気持ちよく掃除したその美しい空気がそこには流れている。

写真7 (子供も大人もみんなでお掃除)



写真8 (気に入ったモノを持ち帰る)



②共同アトリエ入居需要調査

金沢美術工芸大学、金沢学院大学、金沢卯辰山工芸工房の在学学生を対象に、制作活動のアトリエ空間をどのように確保しているのか、どこにどんな広さの空間を求めているのか、アンケート調査を実施した。

調査の結果、大きな作品を作るには狭すぎる（33%）、借家なので汚せない（18%）、騒音が気になり（11%）などの不満を抱えており、調査対象の66%が町家共同アトリエに入居してみたいと考えていることが判明した。

また、66%が県外から金沢に来ているが、学生時代に使える大学が提供してくれるアトリエ（教室）から卒業と同時に出不ければならず、独自にアトリエを構えるために苦勞している実態が認められた。

i) 調査の概要

それぞれの教育機関に依頼し、無差別に配布・回収を行った。調査有効回答数は金沢美術工芸大学 153、金沢学院大学 73、金沢卯辰山工芸工房 34、総数 260 である。

表 1

有効回答数		回答数		構成比
金沢美術工芸大学	工芸科	40	153	58.8%
	日本画専攻	41		
	油画専攻	31		
	彫刻専攻	41		
金沢学院大学		73	28.0%	
金沢卯辰山工芸工房		34	13.20%	
計		260	100%	

その他、学生の属性については、以下の通りである。進学のため県外から来ている学生が66%を占めていることがわかった。また、アートの分野に属して制作している学生が過半数を占めていることもわかった（55%）。

表 2

問 6 あなた自身のことをお聞きます。

	男	女	計
性別	98	162	260
	38%	62%	100%

	金沢市	石川県	県外	計
出身地	43	45	172	260
	17%	17%	66%	100%

	アート	工芸	その他	計
制作分野	142	71	47	260
	55%	27%	18	100%

ii) 調査結果の概要

調査ではまず、学生達がどこで制作活動をしているかを尋ねた。その結果、自宅（一軒家）（21.4%）あるいは自宅（アパート）（28.8%）で制作している学生が、両方をあわせて過半数に達する（50.2%）。ただし、単独の設問では、その他と答えた学生が最も多く（45.5%）、それらの多くは在籍している大学等の提供してくれるアトリエを使用しているものと考えられる。

表 3

問 1 あなたは普段どこで制作活動をしていますか？（複数回答）

	回答数	構成比
自宅（一軒家）	62	21.4%
自宅（アパート）	83	28.8%
独立したアトリエ	13	4.5%
その他	132	45.5%
計	290	100.0%

現在使っている空間の広さについての質問では（問 2 ストックスペースを含めてどのくらいの広さの部屋（空間）を使っていますか？）、227 の回答数があり、最小 1 畳から最大 40 畳で、平均が約 8 畳の空間を使って制作していることがわかった。

また、現在の制作空間については、大きな作品をつくるには狭すぎる（33.8%）、借家なので汚せない（18.2%）、制作する際の騒音が気になり（11.2%）という不満が認められた。

表 4

問 3 あなたは現在の制作空間で不満を感じることはありますか？

（複数回答）

	回答数	構成比
大きな作品をつくるには狭すぎる	115	33.8%
借家なので汚せない	62	18.2%
制作する際の騒音が気になり	38	11.2%
とくに不満はない	96	28.2%
その他	29	8.5%
計	340	100%

大きな町家を共同アトリエとして活用することに対する興味は、調査対象の 3 人中 2 人の割合で（66%）条件次第で入居してみたいという回答が寄せられた。

表 5

問 4 大きな金澤町家を共同でアトリエとして活用することに興味がありますか？

	回答数	構成比
条件次第で入居してみたい	172	66.2%
共同の制作空間には興味はない	79	30.4%
無回答	9	3.5%
計	260	100%

金澤町家への入居の条件として、家賃が低廉である（33.8%）、ある程度の広さを確保できる（25%）の他、室内を自由に改造できる（17%）ことが要望されていることが判明した。

表 6

問 5 どういう条件なら金澤町家を共同でアトリエとして活用しますか？（複数回答）

	回答数	構成比
ある程度の広さを確保できる	124	25.8%
室内を自由に改造できる	85	17.7%
土間の空間がある	32	6.7%
家賃が低廉である	162	33.8%
希望する地区にある	41	8.5%
その他	36	7.5%
計	480	100%

③町家居住世帯の移住・住み替え需要調査

i) シェア型町家活用事例のリーフレット印刷と配布

一般社団法人金澤町家ドミトリー推進機構がこれまで手掛けた町家のシェア型活用事例（町家ドミトリー2軒と町家共同アトリエ1軒）を紹介し告知するためのリーフレットをデザインし、4500部印刷し、居住町家全世帯に配布（不在の場合はポスティング）した。

まちや 町家を 使わせて下さい。

私たちがこれまで3軒の町家の活用を手掛けました。

- ✓ 町家を一定期間借用するで、所有権はそのままです。
- 👥 比較的大きな町家も数人で共同利用（シェア）することで、有効に活用できます。
- 👨‍👩‍👧 若い人が入居するので、高齢化した地域に活力が生まれます。



図 2

町家をお借りして活用する
お年伝いをしていきます！

費用面 所有者（家主）の経済的な負担はほとんどありません

契約面 入居者の募集や管理は金澤町家ドミトリー推進機構に一任

<事例1> 町家の改修費総額

改修費補助 ↑ 金沢市	自己負担分 家賃収入で充当（借用期間） ↑ 金澤町家ドミトリー推進機構
-------------------	--

費用面



契約面

<事例2> 住み替え新居の家賃

共同利用家賃で充当

費用面

↑
金澤町家ドミトリー推進機構



契約面

一般社団法人 金澤町家ドミトリー推進機構
構成メンバー：志村恵・小林史郎（金沢大学教員）、坂本英之（金沢美術工芸大学教員）、小野雅男（法政大学教員）
事務局連絡先：Tel 076-225-7780（金沢アートクミ内）

借用 × 共同利用 × 若者 私たちがこれまで3軒の町家の活用を手掛けました。

事例1 空き町家→ドミトリー（学生寮）

エピソード
所有者は、町家を取り壊さずに活用することを希望していました。そこで、定期借用でドミトリーとして活用させてもらうことを提案し、実現しました。

改修と利用
10年以上空いていた町家2軒は、そのまま住むことはできない状態でした。そのため、構造補強をしながら、トイレや風呂などの水回りは最新の設備を導入するなど、快適な生活を送ることができるように大規模改修をして蘇りました。町家の中で、風呂、トイレ、台所やダイニング（チャノ間）を共同利用し、3〜4人がそれぞれ一部屋ずつの個室を持ちます。そこで大学生など若い人が共同生活を楽しくしており、いわば町家版の学生寮ともいえます。

町家所有者の経済的負担
改修するにあたって、金沢市からの補助金を充てており、所有者の自己負担分（改修費の半額相当）は、入居者の数年間の家賃で補填します。

これから
一定期間が過ぎると、契約を更新するか、借用を停止するかを、所有者の方と協議して決めることにしています。

東山2丁目/大正期以前の町家/延べ床面積 106㎡/2010年4月から共同利用開始
幸町/明治中期の町家/延べ床面積 205㎡±土蔵/2010年11月から共同利用開始



事例2 移住・住み替え→アトリエ（制作工房）

エピソード
高齢でひとり住まいだった所有者は、広すぎて寒さ対策が十分でない町家からマンションへの住み替えを希望されていました。そこで、定期借用で活用させてもらうことを提案し、共同アトリエが実現しました。

改修と利用
当初まで所有者の方が住んでおられましたので、まずはそのままアトリエとして活用を始めています。大きな町家を5〜6グループが数部屋ずつ区分して、工芸や家具、アートの制作工房として共同利用を始めています。

町家所有者の経済的負担
共同アトリエ入居者の家賃を、新たな生活の場としたマンションの家賃に充ててもらっています。雨漏り対策などは入居者が行っているので、町家所有者は町家の中にあつた不要品の処分費用のみ負担してもらっていました。

これから
今後、市民のみならずから寄付を募って、金沢市からの補助金も合わせることで資金を調達して、より快適なアトリエに改修する予定です。

芳野町/昭和初期の町家/土蔵延べ床面積 380㎡±土蔵/2011年11月から共同利用開始



ii) 町家居住世帯の実態と住み替え需要調査

居住町家世帯約4千軒を対象として、移住・住み替えにより賃貸する意向があるかどうかをアンケート調査により把握した。町家住まいが快適であり、町家に愛着がある世帯が多かったが、その一方可能であれば移住・住み替えしたいと考えている世帯主は約1割を占め、住み替えには経済的な負担がない場合ならば、という条件を最も強く求めていることが判明した。

■ 調査回答数

有効回答数は876である。

有効回答：876

	回答数	構成比
訪問による直接回答	669	76.4%
留置、郵便による回答	207	23.6%
計	876	100.0%

■ 町家の概況

建築年代は、戦前（昭和）が約半数を占めている。

敷地面積は、30坪以下の狭小な町家が約3割、逆に70坪を超える町家が約2割を占める。

土地と建物を自己所有しているのが約9割を占めており、借地・借家は1割に満たない。

問1 建物の建築年代

	回答数	構成比
江戸時代	35	4.0%
明治時代	93	10.6%
大正時代	124	14.2%
昭和25年以前	486	55.5%
不明	138	15.8%
計	876	100.0%

問2 建物の敷地面積

	回答数	構成比
10坪以下	14	1.6%
11～20坪	111	12.7%
21～30坪	152	17.4%
31～50坪	201	22.9%
51～70坪	113	12.9%
71～100坪	99	11.3%
101坪以上	71	8.1%
不明	115	13.1%
計	876	100.0%

問3 土地と建物の所有関係

	回答数	構成比
両方とも自己所有	795	90.8%
借地・借家	62	7.1%
その他(家族、法人等)	15	1.7%
不明	4	0.5%
計	876	100.0%

■町家での居住実態

居住人数では、単身世帯が22%を占め、4人以上は16%にすぎない。

夫婦、親と子が約3割を占めている。

世帯主の年齢が70代以上の世帯は6割を占めている。

世帯主の居住年数が40年以上の世帯は、66%を占めている。

問4 現在の居住人数

	回答数	構成比
1人	191	21.8%
2人	358	40.9%
3人	182	20.8%
4人	75	8.6%
5人	33	3.8%
6人以上	35	4.0%
不明	2	0.2%
計	876	100.0%

問5 その家族構成

	回答数	構成比
単身	191	21.8%
夫婦	276	31.5%
親（世帯主）と子	242	27.6%
子（世帯主）と親	57	6.5%
三世代（親と子と孫）以上	81	9.2%
その他	25	2.9%
不明	4	0.5%
計	876	100.0%

問6 世帯主の年齢

	回答数	構成比
20～30代	17	1.9%
40代	29	3.3%
50代	66	7.5%
60代	238	27.2%
70代	281	32.1%
80歳以上	244	27.9%
不明	1	0.1%
計	876	100.0%

問7 世帯主の居住年数

	回答数	構成比
5年以下	41	4.7%
6～10年	33	3.8%
11～20年	52	5.9%
21～30年	62	7.1%
31～40年	103	11.8%
41～50年	135	15.4%
50～60年	158	18.0%
61～70年	144	16.4%
71年以上	141	16.1%
不明	7	0.8%
計	876	100.0%

■今後の町家住まいの意向

積極的に町家住まいを続けたいのは約7割、消極的な住み続けは17%であり、逆に可能なら移住や住み替えを希望する世帯は10%にのぼる。

住み続けたい理由では、町家への愛着（66%）、町家住まいが快適（40%）、近所づきあい（37%）の他に、生活に便利（14%）が挙げられた。

住み続けざるをえない理由では、高齢や独り身だから（50%）、引っ越しが費用面で難しい（43%）、他の場所の生活が不安（21%）の他に、現住地に住み慣れているなど（9%）が挙げられている。

3. 今後の町家住まいについて

問8. 今後、移住や住み替えをお考えですか？

	回答数	構成比
1 この町家に住み続けたい	608	69.4%
2 可能であれば移住や住み替えしたい	90	10.3%
3 この町家に住み続けざるをえない	150	17.1%
4 今はわからない、不明	28	3.2%
計	876	100.0%

問9. 「この町家に住み続けたい」と回答した方に 住み続けたい理由は難ですか？（該当するものすべてに○）

	回答数	構成比
1 この町家住まいが快適だから	244	40.1%
2 この町家に愛着があるから（受け継がれてきた財産だから）	404	66.4%
3 この町内会や隣近所との付き合いが心強いから	224	36.8%
4 生活に便利だから（交通、買い物、病院など行くのに便利）	85	14.0%
5 住み慣れた土地から離れたくない、いまさら引越しも面倒、	34	5.6%
6 商売（店）をしている、仕事の都合でなど	32	5.3%
7 木の柱や壁が好き、風通しもよく夏涼しい、など	18	3.0%
8 修繕したり、リフォームしているから	15	2.5%
9 その他	14	2.3%
計（母数608）		

問11. 「この町家に住み続けざるをえない」と回答した方に 住み続けざるをえない理由は何ですか？（該当するものにすべて○）

	回答数	構成比
1 高齢や独り身だから	75	50.0%
2 費用面で引越しが難しいから	65	43.3%
3 他のところで生活するのが不安だから	31	20.7%
4 便利な場所、住み慣れている、愛着があるなど	13	8.7%
5 商売（店）をしているので	11	7.3%
6 他にいくところもないので	8	5.3%
7 その他	18	12.0%
計（母数150）		

可能であれば移住や住み替えしたい理由では、改修費が高む（38%）、地震が心配（32%）、冬の寒さが堪える（29%）、家が広すぎる（16%）の他に、一人暮らしが不安、雪の処理が負担などが挙げられている。

問10. 「可能であれば移住や住み替えしたい」と回答した方に
移住したい理由は何ですか？（該当するものにすべて○）

	回答数	構成比
1 冬の寒さに耐えられないから	26	28.9%
2 家が広すぎて使いこなせないから（狭い家で十分だから）	14	15.6%
3 地震が起きたときが不安だから	29	32.2%
4 建物の傷みが激しくて改修費がかさむから	34	37.8%
5 床の段差が危険に感じるようになったから	12	13.3%
6 高齢で独り暮らしが不安になってきたので	8	8.9%
7 雪の処理が大変	8	8.9%
8 狭い、古い、汚いなど	8	8.9%
9 商売をやめたら移住したい	5	5.6%
10 その他	22	24.4%
計（母数90）		

住み替えの条件としては、経済的な負担がない（29%）が最も多く、家財道具の処分や信頼できる入居者や仲介者の見込みも少なくない（9%）。

問12. 「可能であれば移住したい」「住み続けざるをえない」と回答した方に
どういう条件ならば、住み替えをして、この町家を賃貸や売却しますか？
（該当するものにすべて○）

	回答数	構成比
1 経済的な負担がほとんどない（小さい）場合	70	29.2%
2 信頼できる入居者や仲介業者が見込める場合	22	9.2%
3 家財道具の整理や処分に労力をさかなくてよい場合	23	9.6%
4 親族や相続人の理解が得られる場合	23	9.6%
5 考えていない、わからない	46	19.2%
6 無回答	61	25.4%
7 その他	32	13.3%
8 計（母数240）		

④町家共同アトリエ支援組織構築

町家を保全しながら若いアーティストを育成するための市民ファンドを創設するために、専門家（コミュニティ・ユース・バンク momo 代表理事木村真樹氏とパブリックリソースセンター事務局長岸本幸子氏）を招聘して研究会を3回開催した。その研究会での議論を踏まえ、資金面の支援について以下のような構想を固めることができた。

■名称

町家共同アトリエ育成市民ファンド

■狙い

- ・ アトリエ入居者が成長し活躍することを支援する
- ・ 若い卵（美大卒業生など）が金沢から転出するのを防ぎ、逆にそのような若手が金沢へ転入する人を増やすことで、創造都市金沢を構築していく
- ・ 市民や企業が若手を育成する機会を提供し、そういう風土を醸成する

■目標金額

- ・ 総額 500 万円（2012 年 9 月 1 日時点）
- ・ 大口 10 万円×20 口 小口 5 千円×600 口
- ・ 寄付金 500 万円＋金沢市の改修補助金 500 万円 合計 1,000 万円でアトリエとして本格改修に着手する

■募集方法

○チラシの作成

- ・ 名称やキャッチコピーが重要なので要検討

○チャリティプログラムの開催

- ・ 松本染物店の 2 階フローリングスペースなどで開催
- ・ 参加費の中に寄付金を含める 7 千円うち 5 千円は寄付金など
- ・ 2 ヶ月に 1 回程度定期的に開催
- ・ アトリエ入居者小杉さんたちに企画を依頼する

○額装作品の販売

- ・ 松本さんから譲り受けた額装作品を販売する
- ・ 5 千円（梱包や送料などは別途）
- ・ この販売もチラシに掲載する

アトリエ入居者やアートとまちづくりをテーマとしている金沢市民研究機構メンバーを中心に、その活動母体を組織化する段階まで至っている。

3. 事後評価

(1) 事業の効果

町家共同アトリエオープン前に、イベント型の2つのプログラム、作品展「マチヤイロ」とお掃除ワークショップ「おくりいえプロジェクト」を開催し、合計で400名近い方が町家に足を運んだ。その結果として、来訪者の中から入居者5組が現れたことは大きな成果であった。

さらに、美大等の在学生の約8割が共同アトリエへの入居を希望していること、一方の町家居住世帯の約1割が移住・住み替えを希望していることが調査から明らかになったことから、両者のコーディネートにより町家共同アトリエの潜在需要を喚起することが求められていることも明らかになった。

同時に、町家活用事例のリーフレット配布により、所有（居住）している町家活用の相談も十数件寄せられたことも、次のプロジェクトの実現性を高めている。

また、事業実施体制では、アーティストの情報収集・情報発信に関しては、NPO法人金沢アート Gummi および金沢美術工芸大学との連携、町家の改修および有効活用に関しては、LLP 金澤町家との連携により、実効性のある活動を展開する仕組みが構築できた。

(2) 目的の達成状況

移住・住み替えと定期借家による町家共同アトリエというプロジェクトを実行し、それをリーフレットやイベントプログラムを通じて広く告知できた。それを土台にして、共同アトリエへの入居需要と町家の移住・住み替え需要を調査により把握できたことは、当初の目標を十分に達成したと言える。

4. 今後の課題

町家共同アトリエを支援する市民組織と資金的なサポート基盤である市民ファンドの構築については、これから取り組むべき課題として残された。

5. 今後の展開

今年度オープンさせた町家共同アトリエ第1号の運営ならびに改修事業を引き続き行っていく。同時に、早くも入居希望アーティストが数名応募してきている一方で、賃貸を希望している町家所有者数名から連絡が来ていることから、第2号の町家共同アトリエの実現に向けて歩を進めていく。また、市民ファンドの実現に向けた継続的な企画会議も開催していく。

■ 団体概要・担当者名			
団体設立時期	平成22年4月		
代表者名	代表理事 志村 恵		
連絡先担当者名	坂本 英之		
連絡先	住所	〒920-0942	石川県金沢市小立野5丁目1-1-1
	電話	076-262-3679	
ホームページ	http://tour.artgummi.com/?category_name=machiya		